

# 県下最大級の高地性集落

## 交流・物流の拠点 「熊野本遺跡」

高島市は古来、陸路、水路の交通の要衝として栄えてきました。特に西日本を中心に情報が行き交う弥生時代中期後半(約2100年前)には、高島市においても活発に他地域と交流があったことがうかがえます。



墳丘墓全景

その頃、新旭町の饗庭野台地に大規模な拠点集落が出現しました。これが熊野本遺跡です。高台に位置するこの集落は、高地性集落といわれ、展望のよい場所にあります。滋賀県内の高地性集落の中でも大規模かつ長期間にわたって営まれていたことがわかっています。

## 発掘された高地性集落

熊野本遺跡では、今から20年以上前の開発工事に伴う発掘調査によって、約30棟の住居跡やムラの有力者の大型住居跡、日本海地域にルーツを持つ建物の跡が発見されました。また、出土した土器からは弥生時代中期から古墳時代が始まるまでの約300年間連続する集落であることが分かりました。出土品の中には、野洲川流域や日本海沿岸地域・大阪湾沿岸地域・瀬戸内沿岸地域などから運ばれてきたと考えられる土器が含まれていて、他地域と活発に交流してい

たようすがうかがえます。

特に、熊野本遺跡では弥生時代当時に貴重であった鉄器が30点以上出土し、近畿地方の他遺跡と比べ豊富な内容を示しています。鉄製品に加え、その製作過程で生じる鉄片も見つかっていて、鉄器の加工・製作が行われていたことが推定されています。

## 墳丘墓と古墳群

遺跡から琵琶湖を見下ろすことのできる見晴らしのいい場所には、弥生時代後期に墳丘墓が築かれるようになります。ここではL字状石柵や青いガラス小玉が出土していることや日本海地域に多い墳丘墓に石を貼る特徴から、日本海地域の墓制とのかかりがうかがえます。古墳時代に入ると集落の北側ではこの墳丘墓に続くように古墳が築かれ、古墳時代中期まで存続します。

このように熊野本古墳群を含む熊野本遺跡群は弥生時代の地域間交流だけでなく、湖西地域の古墳時代を解明するうえでも重要な遺跡です。



ガラス小玉(741個)

現地には熊野本遺跡と古墳群の案内板が設置されています。古代に人々が見た景色を約2000年の時を越えて望んでみてはいかがでしょうか。

文化財課 (25)8559

## 編集感

今回の表紙は、いよいよ来年開催される国スポ・障スポのPRキャラクター集合のようす。インスタで高島市の写真を発信している「たかP」もついに立体化し、感慨深いです。これからいろんなところに出て行って、大会を盛り上げてほしいですね♪今年はいハーサル大会として、市内で4競技の大会が開催されます。この機会にトップレベルの試合を見てみませんか? (S)

広報たかしま

令和6年

8

月号

No.295

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課  
滋賀県高島市新旭町北畑のののの番地

0740(25)8000(代)  
https://www.city.takashima.lg.jp  
t-info@city.takashima.lg.jp